

説教題：ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにいますか？

マタイの福音書 2 章 1 - 12 節

¹イエスが、ヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき、見よ、東方の博士たちがエルサレムにやって来て、こう言った。²「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになりますか。私たちは、東のほうでその方の星を見たので、拝みにまいりました。」³それを聞いて、ヘロデ王は恐れ惑った。エルサレム中の人も王と同様であった。⁴そこで、王は、民の祭司長たち、学者たちをみな集めて、キリストはどこで生まれるのかと問いただした。⁵彼らは王に言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者によってこう書かれているからです[ミカ書 5 章 2 節と 4 節]。⁶『ユダの地、ベツレヘム。あなたはユダを治める者たちの中で、決して一番小さくはない。わたしの民イスラエルを治める支配者が、あなたから出るのだから。』」⁷そこで、ヘロデはひそかに博士たちを呼んで、彼らから星の出現の時間を突き止めた。⁸そして、こう言って彼らをベツレヘムに送った。「行って幼子のことを詳しく調べ、わかったら知らせてもらいたい。私も行って拝むから。」⁹彼らは王の言ったことを聞いて出かけた。すると、見よ、東方で見た星が彼らを先導し、ついに幼子のおられる所まで進んで行き、その上にとどまった。¹⁰その星を見て、彼らはこの上もなく喜んだ。¹¹そしてその家にはいって、母マリヤとともにおられる幼子を見、ひれ伏して拝んだ。そして、宝の箱をあけて、黄金、乳香、没薬を贈り物としてささげた。¹²それから、夢でヘロデのところへ戻るなどという戒めを受けたので、別の道から自分の国へ帰って行った。

皆さん、おはようございます。今日、ここで皆さんにお目にかかれてうれしいです。この数週間、私たちは主イエス・キリストの到来、ベツレヘムでの救い主の誕生を待ち望みながら、アドベントの季節の各週を迎えてきました。

ベツレヘムの馬小屋の光景は、私たちにとってとても身近なものです。赤ん坊のイエスが、お母さんのマリヤとヨセフによって飼い葉桶に寝かされ、そのそばにヨセフがいます。ルカの福音書によると、羊飼いたちが野原で羊の群れを守っていると天使が現れ、「救い主、すなわち主キリスト」の誕生を告げた（ルカ 2：11）。そこで彼らは急いで馬小屋に行き、マリヤとヨセフと赤ん坊のイエスを見つけました。マタイの福音書 2 章では、「マギ」と呼ばれる賢者が幼子イエスのもとを訪れたことが記されています。今日のメッセージでは、東方から旅をしてきたマギがエルサレムに到着し、「ユダヤ人の王として生まれた方はどこにおられますか？」と尋ねる物語に焦点を当てたいと思います。その問いが、今日のメッセージのタイトルです。

マタイの福音書 2 章 1 - 4 節を読みましょう。 - ¹イエスが、ヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき、見よ、東方の博士たちがエルサレムにやって来て、こう言った。²「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになりますか。私たちは、東のほうでその方の星を見たので、拝みにまいりました。」³それを聞いて、ヘロデ王

は恐れ惑った。エルサレム中の人も王と同様であった。⁴そこで、王は、民の祭司長たち、学者たちをみな集めて、キリストはどこで生まれるのかと問いただした。

キリストが誕生したとき、賢者マギたちは、故郷で何かの星を見ます。それがユダヤ人の王が誕生したことを意味するのだと何となく理解し、エルサレムへと旅立ちます。この物語の全体像をもう少し詳しく見てみたいので、メッセージを以下の部分に分けてお伝えします。

1. 賢者「マギ」たちとは、どのような人たちでしょうか。
2. 異邦人を見よ。
3. ヘロデとエルサレム全土は、なぜマギに質問されて困惑したのでしょうか。
4. ユダヤ人の王として生まれた方は、どこにおられるのでしょうか。

パート1：賢者「マギ」とはどのような人たちでしょうか？

ここで使われているギリシャ語は「マゴイ (μάγοι)」で、これは「マゴス (μάγος)」という言葉の複数形です。私が使っている New American Standard Bible の脚注には、マギについてこのように記述されています。「天文学、占星術、自然科学を専門とする教養人たちの集団」。1節に彼らは「東方から」来たとありますが、私のレクザム聖書辞典にはこのように書かれています。「古代ギリシャの歴史家ヘロドトスは、古代メデシアとペルシャの祭司の階級を表すのにマゴイという言葉を使った。」

なぜ、そのような人たちがユダヤの王に興味を持ったのでしょうか。彼らはユダヤ人ではなく、異邦人です。旧約聖書の歴史を思い起こせば、神に選ばれた民はしばしば不従順であり、神は彼らを厳しく裁かれることもありました。北イスラエルはアッシリアに征服され、捕虜となり、南ユダは征服され、バビロンの捕囚となりました。そして、バビロンの支配者たち、後のメデシア・ペルシャに大きな影響を与えました。旧約聖書のダニエル書には、ダニエルとその友人3人がバビロンの王に仕えるようになったことが書かれています。また、ネヘミヤ記やエステル記には、メデシア・ペルシャに征服された後、この地方に住んでいたユダヤ人たちのことが書かれています。

やがてペルシャのクロス王は、ユダヤ人がユダの地に戻ることを許しました。しかし、多くのユダヤ人はメソポタミアに留まることを選択しました。彼らはペルシャ帝国の宗教事情に影響を与えたようで、マギはユダヤ人のメシアへの希望を聞いた可能性があります。神は、占星術や天文学に傾倒していたマギに、夜空に特別なしるしを与えようと望まれたのでしょう。ユダヤ人のメシアへの憧れを知っている人なら、この「ユダヤの王」という称号がメシア的な称号であることを知っていたでしょう。

そして、マギはこの王を探すために東方からユダヤにやってきたのです。教会の伝統は、このマギについて、実際には聖書に書かれていないイメージをいくつか与えています。例えば、この人たちを3人の王と表現したのを聞いたことがあると思います。しかし、彼らは王ではありませんし、3人でもありませんでした。しかし、彼らは非常に重要な人物であったことは確かです。おそらく、3つの贈り物と書かれていることから、人々は3人のマギがいるに違いないと思い、それぞれが1つの贈り物を提示したと考えたのでしょう。実は、エルサレムに到着した一行は、3人という少人数ではありませんでした。このマギは東方からかなりの大所帯で旅をしてきたはずで、遠い国からこれだけの長旅をするためには、それなりの人数が必要だったはずで、

「ユダヤ人の王として生まれた方はどこにおられますか？」

マタイ 2:4-6 - ⁴そこで、王は、民の祭司長たち、学者たちをみな集めて、キリストはどこで生まれるのかと問いただした。⁵彼らは王に言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者によってこう書かれているからです[ミカ書5章2節と4節]。⁶『ユダの地、ベツレヘム。あなたはユダを治める者たちの中で、決して一番小さくはない。わたしの民イスラエルを治める支配者が、あなたから出るのだから。』」

マタイ 2:9-11 - ⁹彼らは王の言ったことを聞いて出かけた。すると、見よ、東方で見た星が彼ら(マギ)を先導し、ついに幼子のおられる所まで進んで行き、その上にとどまった。¹⁰その星を見て、彼らはこの上もなく喜んだ。¹¹そしてその家にはいって、母マリヤとともにおられる幼子を見、ひれ伏して拝んだ。そして、宝の箱をあけて、黄金、乳香、没薬を贈り物としてささげた。

金、乳香、没薬。金は王権を、乳香は神を、没薬は苦難と死を象徴しています。

この賢者たちは、ユダヤの王を礼拝するために遠い国からやって来たのです。この東方の尊敬すべき異邦人たちが、メシアの誕生の空のしるしを理解し、メシアを礼拝するためにはるばるユダヤまでやってきたということは、私にとって驚くべきことです。そして、記録に残る最初のイエスの礼拝者が異邦人であったことも、私にとって驚くべきことです。近年、このマギはメソポタミアに住んでいたユダヤ人であったという説を発表する学者もいることは知っていますが、今日でもほとんどの聖書学者は彼らを異邦人と見なしていません。イエスを最初に礼拝したのが異邦人であったということは、私にとって驚くべきことです。

パート2：異邦人を見よ。

旧約聖書を何度も読み返すうちに、神がいかに異邦人を愛しておられるかということを感じます。私は子供の頃から、人間にはユダヤ人と異邦人の二種類があり、前者は神の計画の中で中心的な位置を占める「選ばれし民」であるという考え方を教えられてきました。旧約聖書には、イスラエルの子らが異邦人とは異なる存在であることが書かれています。しかし、旧約聖書を最初から最後まで読むと、意外なことに、いくつかの点に気がつきませす。それは神は異邦人をも愛しておられることです。そこで異邦人について少し話をさせてください。今日のこの説教はユダヤ人の王についてですが、神がユダヤ人以外も大切にされているということでもあります。

例えば、アブラハムの息子イサクは、神がその計画を実現される「約束の子」ですが、アブラハムのもう一人の息子イシュマエルにも創世記 16:10-12 と 21:18 で祝福と約束が与えられています。イシュマエルは神の計画から外れて生まれましたが、それでも神はイシュマエルに祝福を与えています。もう一つの例を挙げましょう。モーセはミディアン¹⁹の祭司エテロの娘と結婚しますが、このミディアンの祭司はすでに真の神ヤハウエを知っていたようです。この話については、出エジプト記 2 章と 3 章などを参照してください。ミディアン人は選ばれた人々ではありませんでしたが、少なくとも彼らの中には真の神を知っている人がいたのです。そして、3 つ目の例はこれです。神は預言者ヨナを送って、アッシリア帝国の首都であるニネベの町にメッセージを与え、悔い改めなければ破滅に直面すると告げます。彼らは悔い改めることを選び、神はその町を救われました。このような旧約聖書の物語は、神が異邦人をもイスラエル人と同じように愛しておられることを教えてくれます。

実際、創世記 12 章でアブラハムが初めて神に召されたとき、神は 2 節と 3 節で次のような約束をされています。 - そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。³あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」

そして、あなたにおいて、地上のすべての家族が祝福されるのです。

神が一人の人間、そしてその人間から一人の国民に焦点を当てた目的は、実は地上のすべての家族を祝福するという計画の一部だったのです。

マタイ伝の最後に、イエスは弟子たちに大宣教命令を与えられます。マタイ 28:19-20 -
¹⁹だから、行って、すべての国の人々を弟子とし、父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、
²⁰私²⁰があなたがたに命じたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。そして、わたしは、時代の終わりまで、いつもあなたがたとともにいる。」

イエスは使徒たちに、すべての国の人々を弟子にするように命じています。これは彼らのへ宣教命令であり、この時代の私たちへの宣教命令でもあります。福音のメッセージは、すべての国の人々のためのものです。ユダヤ人の王であるイエスは、すべての国民に福音を伝えるようにと指示されています。

ローマ人への手紙の中 1 章 15-16 節で、パウロはローマにいる人々に言っています - ¹⁵ですから、私としては、ローマにいるあなたがたにも、ぜひ福音を伝えたいのです。¹⁶私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。」

もちろん、福音のメッセージはまずユダヤ人に向かいますが、それはギリシヤ人のためでもあります。この「ギリシヤ人」という言葉は、新約聖書ではユダヤ人以外の人、つまりこれは異邦人を意味する言葉です。パウロが宣教の旅に出た先々で、まずシナゴグに行ったのは、ユダヤ人なら福音のメッセージを理解するための背景情報を持っているからです。しかし、彼は異邦人にも目を向けました。それは、使徒の働き 9 章のダマスコの道での回心により、イエスが彼に与えた使命だったからです。

さて、ここで生まれたばかりのユダヤの王を探していたマギの話に戻しましょう。マタイの福音書 2 章の冒頭部分を読んでみましょう。以下は 1 節から 3 節までです。 - ¹イエスが、ヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき、見よ、東方の博士たちがエルサレムにやって来て、こう言った。²「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになりますか。私たちは、東のほうでその方の星を見たので、拝みにまいりました。」³それを聞いて、ヘロデ王は恐れ感った。エルサレム中の人も王と同様であった。」

パート 3: ヘロデとエルサレム全土は、なぜマギに質問されて困惑したのでしょうか。

この時期のユダヤの政治状況の背景を少しお話ししましょう。ユダヤはローマ帝国が支配しており、ヘロデを王として据えていました。ヘロデ大王はイスラエル人ではありません。彼はイドメ人と呼ばれるイスラエルとはつながりのある民族出身でした。彼は政治的に聡明で、手に負えないユダヤ人をコントロールすることができたので、ローマ帝国は彼を好みました。しかし、彼はライバルを恐れる偏執的な支配者でもありました。例えば：彼は、妻の一人を処刑し、その二人の息子を殺させました。それは、彼らが自分に対して陰謀を企てていることを恐れたからです。一方で、エルサレム神殿の全面改修など、偉大な建築プロジェクトに着手しました。そのため、神殿は「ヘロデの神殿」と呼ばれています。

ライバルが嫌いだった彼は、東方から来たマギの一団が、ユダヤの王はどこで生まれたのかとエルサレム周辺に問い合わせをしているのを見て、心に平安がなかったことは想像に難くありません。ユダヤの王？ヘロデは王であり、ライバルはいらないと思っていました。

この大きな一団が東方からエルサレムにやって来て、ユダヤの王はどこにいるのかと指導者たちに問いかけたのですから、当然大騒ぎになりました。

4節によると、ヘロデは祭司長たちや律法学者たちを呼び集め、「キリストはどこで生まれるのか」と尋ねたとあります。

5節と6節に預言者ミカの言葉が引用されていますので、ミカ 5:2 を見てみましょう。 -

「ベツレヘム・エフラテよ。あなたはユダの氏族の中で最も小さいものだが、あなたのうちから、わたしのために、イスラエルの支配者になる者が出る。その出ることは、昔から、永遠の昔からの定めである。」

預言者ミカは、メシアは小さな町ベツレヘムで生まれると宣言しています。そこはダビデ王の出身地であり、ダビデの物語を覚えておられるなら、彼が家族の中で一番若い男の子で、あまり重要ではないと思われていたことを覚えておられるでしょう。そして、メシアは、偉大なダビデ王を生んだこの小さな場所でお生まれになり、この謙虚な出発を繰り返すことになるのです。

今日のメッセージの次のパートに進み、そのマギの問いに戻りましょう。

パート 4: ユダヤ人の王として生まれた方は、どこにおられるのでしょうか。

マギの物語を考えると、星を読み解く専門家である彼らは、ユダヤ人の王が生まれたことを伝える空の何かを読み取ることができました。しかし、その正確な位置はわかりませんでした。そのためには、ユダヤの首都に問い合わせる必要があったのです。このことは、私たちの人生について教訓を与えてくれます。主は私たちにいくつかの情報を与えてくださいましたが、すべてではありません。主は、私たちが始めるのに十分な情報を与えてくださいますが、すべてを明らかにしてくださるわけではありません。私たちは信仰によって一歩を踏み出し、その過程で、神が始めた旅を完成させるために必要な追加情報を得るために努力しなければならないこともあるのです。クリスチャン生活は、第2コリント 5:7 にあるように、目で見るとはならず、信仰によって歩む生活です。しかし、それは能動的な人生であり、受動的な人生ではないことを忘れてはなりません。旧約聖書の信仰深い聖人たちの物語であるヘブル人への手紙 11 章を読むたびに、私はそこに登場する人々がそれぞれ何かをすることによって信仰を行使したことに驚かされます。何かをします。信仰は行動します。ヘブル 11:4-信仰によってアベルはいけにえをささげました。7節-信仰によって、ノアは箱舟を造りました。ヘブル 11:8 を読みましょう。「信仰によって、ア

ブラハムは、相続財産として受け取るべき地に出て行けとの召しを受けたとき、これに従い、どこに行くのかを知らないで、出て行きました。」「彼はどこに行くのか知らないで出て行ったのです。」これは、ユダヤ人の王が生まれたというしるしを見せられたマギが、彼を探すために旅をして、その途中で質問をしたことを思い起こさせます。

マギの問いに戻りますが、別の角度から見てみたいと思います。マギは地理的な質問をしました。しかし、私は霊的な質問をしたいのです。あなたの人生の中で「ユダヤの王」はどこにいるのでしょうか？あなたにとって、彼は誰ですか？彼はあなたの人生の王ですか？あなたの心の中に君臨している王ですか？それとも、あなたから遠い存在なのでしょうか？

おなじみの物語を聞くこのアドベントの季節に、キリストの誕生を待ち望みつつ、私たち一人ひとりがこの問いについて考えてみたいと思います：あなたの人生の中でイエスはどこにいるのでしょうか？あなたはキリストを自分の救い主として受け入れましたか？あなたは、自分の人生に満足しすぎて、最近イエスが遠くに感じられるようになったクリスチャンでしょうか？イエスへの愛をもう一度取り戻してください。講堂の後ろに「リフト」という看板がありますが、これは今日の礼拝の後に行って、そこにいる人たちにあなたを祈りで引き上げてもらうことができる場所です。祈ってもらうこともできますし、何か必要なことがあれば、もっとお願いすることもできます。もしあなたがまだキリストを受け入れていないなら、イエスとの関係に入る方法を誰かに聞けば、私たちはあなたに示すことができます。今日、私は看板のところにいるし、他の人たちもそこにいる。私たちはあなたのために祈り、主との歩みの中でお手伝うことができます。

私のメッセージは、これで終わりです。今日、皆さんに神の祝福がありますように。そして、皆さんが毎日、私たちのメシア、私たちの王であるイエスの近くを歩むことができますように。祈りましょう。